

(Vortrag)

Formen des Politischen in der europäischen Aktionskunst:

Joseph Beuys (West) / Tibor Hajas (Ost)

【講演会】

アクション芸術における政治的なものの形態
西欧のヨーゼフ・ボイス／東欧のティーボル・ハヤス

1. Dez. 2018. Samstag 15:00-18:00

2018年12月1日(土) 15時～18時

Kelo Universität Mita Campus

慶應義塾大学三田キャンパス南館4階会議室

講師

Prof. Dr. Barbara Gronau (Berlin)

バーバラ・グロナウ (ベルリン芸術大学教授)

Dr. Adam Czirak (Berlin)

アダム・シチラク (ベルリン自由大学助教)

*** Der Vortrag findet auf Deutsch statt.**

* 講演はドイツ語で行われます。予約不要。

主催: 日本学術振興会科学研究費基盤研究(B)「越境文化演劇研究 ― 異他の視点からの演劇文化論」

このたびベルリン芸術大学教授のバーバラ・グロナウ氏、ベルリン自由大学演劇学研究所助教アダム・シチラク氏を慶應義塾大学三田キャンパスにお招きして、冷戦期の東西ヨーロッパにおける政治的演劇をテーマにした講演会を開催いたします。グロナウ氏には、旧西ドイツを拠点に活躍し、日本でもよく知られた芸術家ヨーゼフ・ボイスを取り上げていただき、シチラク氏には、日本ではまだ知られていないハンガリーのアクション芸術家、ティーボル・ハヤスの取り組みを、豊富な記録資料と共にご紹介いただきます。お二人の講演に続きまして、参加者を交えてのディスカッションを行う予定です。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

[Profil]

Prof. Dr. Barbara Gronau バーバラ・グロナウ（ベルリン芸術大学教授）

2006年に、ベルリン自由大学演劇研究所にて博士号を取得。造形芸術と舞台芸術との相互干渉について論じた博士論文『Theaterinstallationen. Performative Räume bei Beuys, Boltanski, Kabakov（演劇インスタレーション — ボイス、ボルタンスキー、カバコフにおけるパフォーマティブな空間）』（Fink, 2010）でヨーゼフ・ボイス研究賞を受賞。ベルリン自由大学演劇研究所助手を経て、2012年から2013年までデュッセルドルフ大学准教授を務めた。その他、ドラマトゥルクや演劇祭キュレーターとしても活躍。ドラマトゥルクを務めたShe She Popの「Schubladen（引き出し）」（2012）は、京都芸術センターでの来日公演も果たしている。

Dr. Adam Czirak アダム・シチラク（ベルリン自由大学助教）

ブダペストにてドイツ文学を、ベルリンで比較文学と演劇学を修めたのち、ベルリン自由大学演劇学研究所にて博士号を取得。博士論文『Partizipation der Blicke. Szenerien des Sehens und Gesehenwerdens in Theater und Performance（まなざしの参加 — 演劇とパフォーマンスにおける見ることと見られること）』（transcript, 2012）では、まなざしを通じた主体間の関係について論じた。2011年よりベルリン自由大学演劇研究所にて助教を務める。また、日本人アーティスト田中奈緒子によるインスタレーション・パフォーマンス『Absolute Helligkeit（絶対光度／絶対等級）』（2012年発表、「大地の芸術祭／越後妻有トリエンナーレ 2015」で来日公演）や、『Still Lives』（2018年発表、KYOTO EXPERIMENT 2018で来日公演）のドラマトゥルクも務めている。

日本学術振興会科学研究費基盤研究(B)研究プロジェクト「越境文化演劇研究——異他の視点からの演劇文化論」では、演劇研究における越境文化(transculture)の可能性を模索することで、あるべき国際関係の演劇文化論の再構築を目指しています。世界の演劇研究はこれまで「相互文化的(intercultural)」の立場から各文化の演劇を比較考察してきましたが、近年、「相互(インター)」の考え方が、各文化間にある不均衡の問題をかえって見づらくする弊害が指摘されてきました。そこで本研究は、自己文化の自明性を「越境」することを出発点とし、自分たちの演劇文化に潜む諸問題を明らかにすることで、不均衡を是正するための新しい演劇文化論を模索しています。そのために、国内外の演劇研究者が「自己文化」内で「異他(fremd)」とみなされる問題を浮き彫りにする舞台作品を紹介・議論し、自己文化の自明性の問題を再検証することで、自己文化がより適切に異文化世界に歩み寄る演劇論を模索します。

問い合わせ先：hirata@flet.keio.ac.jp（平田栄一郎、慶應義塾大学教授）

<http://web.flet.keio.ac.jp/~hirata/index.html>